

信頼の主治医



明日の医療を支える 信頼のドクター

2020年版

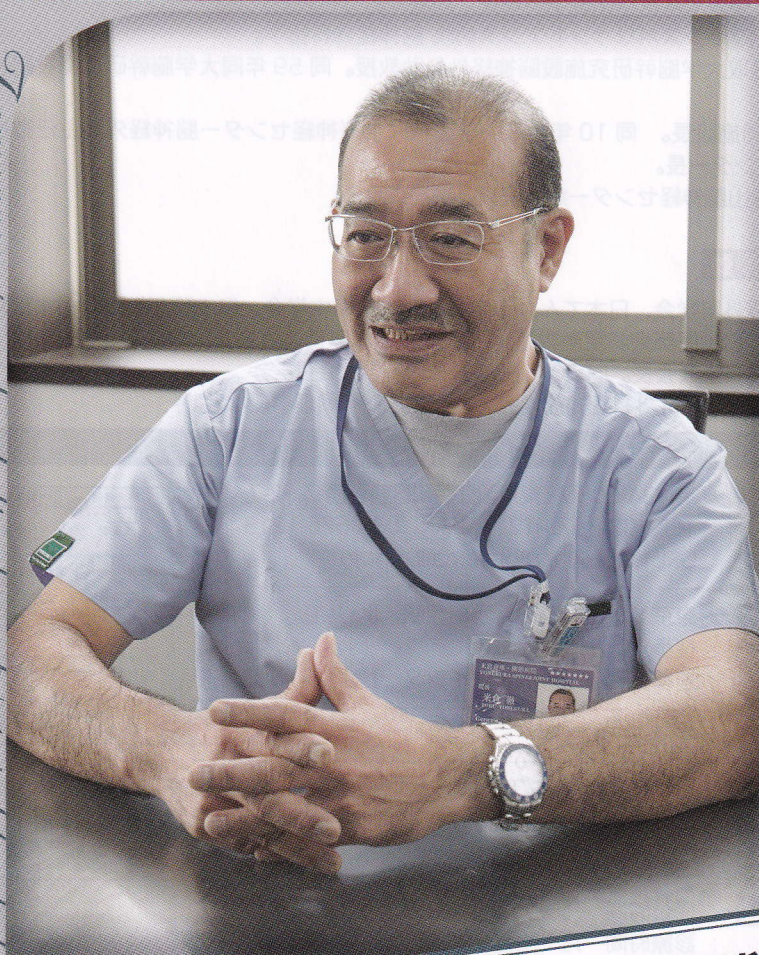


急性期から回復期までを ワンストップで対応



地域医療を支える脊椎・関節疾患の専門医療機関

Tomorrow's medical treatment is supported.



医療法人社団 健整会 米倉脊椎・関節病院

院長

米倉 徹

手術を受けた患者さんを「発症前の状態、
ではなく、「発症より5年から10年前の
健康状態」に戻すことを目標にしています

東京・足立区にある米倉脊椎・関節病院はその名の通り、頸や腰の痛み、手足のシビレの原因となる脊椎疾患と肩や膝および股関節などの関節疾患の治療に特化した専門病院である。

院長の米倉徹医師は、「整形外科は大きく骨折・脱臼・捻挫などの外傷と脊椎や関節の加齢、変性による病気の2つに分かれます。当院では、後者の治療に特化することで専門性を高めています。患者さんに質の高い高度な医療を提供することを目的に開院させて頂きました」と語る。

平成24年の開院から令和元年までのおよそ7年の間に1859件の脊椎・関節疾患の手術を行ってきた。今では地元はもちろん、遠方からも米倉脊椎・関節病院での治療を求めて多くの患者が訪れる。

米倉院長は東邦大学医学部を卒業後、勤務医、海外留学、大学講師など様々な立場に身を置きながら、整形外科医としての知識・経験を積み重ねてきた。

そして、「これからの時代は医療の機能分化が求められる」と、自身の専門分野である整形外科、それも脊椎・関節分野に特化した病院を平成24年2月に開業した。



8階建てのスタイリッシュな建物に全ての医療機能が集約

脊椎・関節に特化した「病院らしくない病院」

米倉脊椎・関節病院は日暮里舎人ライナーの高野駅から徒歩2分程という交通至便な場所にある。一見ホテルと見間違ふような8階建てのスタイリッシュな建物に全ての医療機能が集約されている。

「病院らしくない病院」がコンセプトである院内は、BGMが流れるホテルのロビーのような



米倉院長が全幅の信頼置く5人の常勤専門医

各ドクターの知識・経験が米倉脊椎・関節病院に集積

となっている。

さらに7階がリハビリテーション・機能訓練室となっており、フロアのほぼすべてを占める160㎡を超える広さで、重心動揺計や歩行解析システムといった最新設備を備えている。ここでは同時に約20人のリハビリテーションに対応することができる。

「つくした施設によって、検査から診断、手術、術後のリハビリテーション、いわゆる急性期から回復期までを全てワンストップで行うことが可能になります」



副院長の三雲仁医師

総合受付、日当たりの良い待合室、スタッフのカラーフルなユニフォーム、病棟ごとに内装カラーが違っているなど、随所に工夫が施されている。

こうした取り組みに関して米倉院長は、「患者さん、そして私たちスタッフも気持ちよく過ごせる空間にこだわりました」と話す。

1階に総合受付やカウンセリングルーム、2階に診察、検査、処置室がある。ここにはMRIやCT、骨密度測定器など最新検査設備が備わっている。さらに3階が手術室。4階から6階までは62床の病室で、うち5階と6階の40床が回復期リハビリテーション病棟

信頼の主治医

明日の医療を支える信頼のドクター

医療法人社団 健整会 米倉脊椎・関節病院



望月充邦医師



副院長の橋口宏医師

専門に特化した万全な設備体制を整える米倉脊椎・関節病院で働くスタッフは総勢90人。その中でドクターは非常勤を含めて20人で、常勤の整形外科の専門医は6人が在籍している。

「ドクターは全員が整形外科専門医の資格を持っています。各分野の専門家が揃うのは当院の大きな強みです」

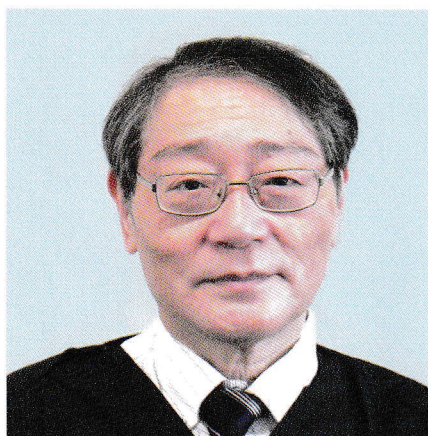
ドクターの質に絶対の自信をもつ米倉院長。米倉院長を除いた常勤の整形外科医5人は、実績・経験ともに申し分のない百戦錬磨のスペシャリストたちだ。

副院長で整形外科部長の三雲仁医師は、昭和大学医学部を卒業後、各地の病院を経て、平成29年に米倉脊椎・関節病院に赴任した。主に脊椎分野の治療を得意としている。

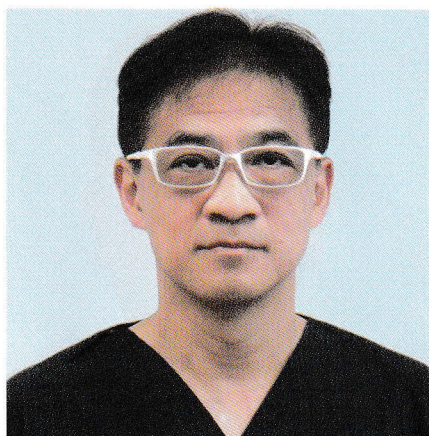
もう一人の副院長である橋口宏医師は、日本医科大学を卒業し、日本医科大学付属第二病院、日本医科大学千葉北総病院を経て、令和2年に米倉脊椎・関節病院へ。主に肩関節分野の治療を得意としている。

望月充邦医師は弘前大学医学部大学院を卒業後、青森県立はまなす医療療育センター、大館市立総合病

2020



増山茂医師



玄東林医師

院、市立函館病院等を経て、平成25年に米倉脊椎・関節病院に着任。平成31年からは同病院のサテライトクリニックである米倉整形外科クリニックの院長も務めている。望月医師は主に下肢関節分野の治療を専門としている。

玄東林医師は脊椎外科部長を務め、秋田大学医学部大学院出身。足立区内の病院で多数の手術を手掛け、平成30年に米倉脊椎・関節病院で勤務を始めた。

増山茂医師は、金沢大学医学部を卒業後、富山県立中央病院、富山市立病院などを経て、日本赤十字社医療センターに10年間勤務した後、令和2年に米倉脊椎・関節病院へ。脊椎の分野を得意としている。

米倉院長は、「常勤の先生方はそれぞれ出身大学が皆違います。違う場所で学んできた医師と一緒に診療を行えることは私自身も非常に勉強になりますし、治療の幅も広がりメリットも大きい」と全幅の信頼を寄せている。



チーム医療で個々の患者に合わせた最適な手術

「目標は発症前以上の健康状態を得ること」

米倉脊椎・関節病院では幅広い脊椎・関節疾患に対応している。脊椎疾患に関しては、頸椎椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症、脊椎変形、骨粗鬆症などが挙げられる。

一方の関節疾患では、半月板損傷、変形性股関節症、変形性膝関節症、大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折に加え肩腱板断裂や変形性肩関節症などがある。米倉脊椎・関節病院ではこうした疾患に対して専門的かつ高度な診察・治療を行っている。

入念な検査、診察を経て診断が下された後、手術が適応となる患者に対して、米倉脊椎・関節病院のスペシャリストたちが執刀する。

米倉院長は、「重視しているのはチーム医療。医師同士でのカンファレンスを徹底し、患者さんにとって最適な手術法を決定し、実際の手術もチームで連携して行います」と話す。

無事に手術が終わった患者は、次に回復期であるリハビリテーションに移行する。回復期医療にも大きな力を注ぐ米倉院長は、この分野に関して次のように説明する。「リハビリテーションにも実際に手術を行った医師が関わるので、効率的なりハビリが行えますし、環境やスタッフも変わらない点は、患者さんに安心を感じて頂けます」

また、「質の高いリハビリを行うにはスタッフの力量が重要」ということで、20人を超えるリハビリスタッフ全員がキャリア豊かな理学療法士、作業療法士となっている。

妥協を許さず万全の診療体制を整える米倉院長の目指す医療は、「患者さんの健康寿命の維持・

増進を図ること」だという。

「具体的には、当院で手術を受けた患者さんを『発症前の状態』ではなく、『発症より5年から10年前の健康状態』に戻すことを目標にしています。今後日本全体において高齢の方が増えてくることが予想されるので、術後のケアやリハビリテーションをもっと充実させたものにしていかなければならないと考えています」と将来を見据える。



全国的に珍しい40床の回復期リハビリテーション病棟

サテライトクリニックとの連携でリハビリ医療の拡充図る

リハビリテーションの重要性を声高に訴える米倉院長は、専門病院としては全国でも珍しい40床の回復期リハビリテーション病棟を設けている。主に人工関節手術や早期の退院が困難な脊椎手術を受けた患者が利用する。

リハビリテーション病棟を活用することのメリットを米倉院長は次のように説明する。

「少し社会復帰の時間に余裕がある方に集中的なリハビリテーションは極めて有効です。また高齢の方に関しては、術後、日常生活動作もままならないままに退院してしまうと、ご本人様だけではなく、家で介護する方々も大きな負担になってしまいます。入院によるリハビリテーションを行うことで、リハビリテーション効果の向上と介護する方々の負担軽減に繋げることができるのです」

こうした病棟に加えて、さらなるリハビリテーション拡充のため、米倉院長は平成31年3月に足立区六町に米倉整形外科クリニックを、令和2年3月には足立区青井に米倉内科整形外科を開院し

た。また、同年8月には北区の王子駅前にY・S・J王子整形外科を開院することが決まっていた。「回復期リハビリテーション病棟は入院できる期間が決まっており、退院時にまだリハビリテーションが必要な患者さんがいらっしゃるといったケースがいくつかありました。そういった患者さんの受け皿となるような、維持期のリハビリテーションを通院で行える施設として開院させて頂きました」



低侵襲手術の導入で手術適応の幅が広がる

「笑顔が絶えない病院づくりを目指していきたい」

開院以来、地域の多様な医療ニーズに応じてソフト、ハード両面でブラッシュアップを重ね、現状に満足することなく常により良い医療を追い求めてきた米倉院長。

「今後は米倉脊椎・関節病院での取り組みをそのままに、もっともっと地域の医療に貢献できる体制を整えていきたいと考えています」と、サテライトクリニックの充実を計画している。

「整形外科のかかりつけクリニックとしての機能と外来リハビリテーション機能をもっと多くの方が享受できる体制にもっていくことが当面の目標です」

また、医療技術が長足の進歩を遂げる中、治療分野においても患者の体に負担がかからず、術後の復帰もスムーズとなる「低侵襲手術」が可能となってきた。これは手術の際、例えば皮膚を切開する長さを小さくしたり、筋肉を切らずに温存したりすることで、患者の体へのダメージを減らすというものだ。

「これまで手術のダメージに体が耐えられないということで、特に体力の弱い高齢の方が手

術を諦めざるをえないケースが多々ありましたが、内視鏡などを使った低侵襲手術が近年増えてきていますので、手術適応の幅が広がったといえます。高齢だから手術を諦めるのではなく、百歳前後まで元気に生きていくことを前提に、当院を頼って頂ければと思います」とメッセージを送る。

曰常ルーチンの外来診療から手術、そして法人運営の舵取り、スタッフの育成といった幅広い分野にわたって多忙を極める米倉院長だが、その表情には疲れや悲壮感は見じみもない。

「スタッフが幸せであれば、患者さんへの良質な医療提供に繋がります。そのため私は病院スタッフの幸せも大切にしたいと考えています。これからも、時間的・経済的ロスの少ない医療体制を構築し、院内にいる全ての人の笑顔が絶えない病院づくりを目指していきます」と米倉院長自身もとびっきりの笑顔で語ってくれた。